

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	社会福祉学基礎演習 I		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

秋学期の授業は、クラスをグループに分けてのディベートでした。1回生の皆さんは、グループに分かれて、自分たちのディベート立論のための準備に励んでいたもので、チューターは先生と一緒に各グループの様子を見守り、質問などがあつた際にはできる範囲でアドバイスなどをさせてもらっていました。ディベート当日は、タイムキーパーなどディベート進行の補助をしたり、簡単な講評をさせていただいたりしました。

また、秋学期にもチューター企画がありました。「私の卒業研究を振り返って—大学で学ぶということ—」と題して、自分の卒論作成と4年間の大学生活での学びについて発表をする機会をいただきました。

秋学期も春学期と同様、チューターとしてどのような立場で1回生と関わっていったらよいか模索しながらの半年間だったように思います。しかし、春学期に比べて、1回生との距離感もぐっと縮まって、1回生の方から質問をしてくれたり、授業後に少し残って学校生活の話をしたりという時間も増えたように思います。ただ、話をする人がいつも同じメンバーだったので、もう少しいろいろなメンバーと話ができたら良かったなという思いも残ります。

小クラスでのディベートの準備は、私はほとんど見守るだけで1回生が積極的に準備している姿が印象的でした。質問をもらっても私はうまく答えられていたのかという思いはありますが、1回生が自分たちでどんどん突破口を見つけていって、パワー感じました。

チューター発表は緊張しましたが、1回生の心に何か残ってしてくれたらいいなと思います。私たちが1回生の時にはチューターのシステムがなく、1回生の時に4回生の話を聞くといことがなかったのが1回生にとってはいい機会になったのではないかと思います。

春学期・秋学期を通して感じたことは、チューターの私たちも1回生に良い刺激をたくさんもらえたなということです。大学に入学したばかりのころの気持ちを思い出させてもらい、授業に向かう姿勢に刺激をもらいました。

1回生と4回生が普段の学校生活の中で関わることはほとんどないので、良い交流にもなったかと思ひます。

<今後のチューターまたは先生への提案>